



# なつのかも

第129号 (R2. 6. 1)

練馬区立光が丘夏の雲小学校



本校ホームページ  
携帯・スマホ用サイト  
でもご覧ください。

## 磨け！磨け！心を磨け！命ある間に我が身を磨け！

校長 牧野光洋

学校が再開されます。いろいろと制限は付加されている中、元気な子供たちの声が聞こえる生活は今までの「我慢」を一掃してくれるほどうれしいものです。もちろん、これからも健康に留意していかなければなりません。ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

ここ数か月、残念な便りがたくさん舞い込んできました。「自分の人生をいかに、有意義なものにできるか」それは人生最大の問題です。その道しるべが「命ある限り、自らを磨き続ける」だと思います。自分の心を磨いてゆく毎日こそ、理屈抜きに本当に落ち着いた安らぎと充実感が味わえるものと考えます。

「めでたきは、今年の蚊にも喰われけり」という句があります。もうじき蚊の季節になります。必ずと言っていいほど「蚊」に刺されます。「今年もまた蚊に喰われた。(刺された)あ～いやだ!」となります。よく考えると、昨年私たちを刺した蚊はもう死んでしまってこの世にいません。蚊も蝉も蜂も草花も！大抵の生き物が毎年死んでゆきます。その中で私たちは生き残っています。なんと有難い、もったいない、かたじけないことでしょうか。この命ある間に、自らを磨き、有意義な生き様を生きなくてはあまりにも勿体ないことです。「あ～いやだ」と文句や愚痴を言いたくなったら、「文句を言えるのも生きていればこそだ。有難い。今のうちに、命ある間に自分を磨かなくては」と気付くことが大切です。今の世の中、怒の心をもって信念をもっていたいただければ幸いです。「たとえ周りの環境がどう変わろうと、自分の人としての心がけを正しく保ち、自己を一生懸命磨き続けていくのだと」



道端の落ち葉や、捨てられているごみは、風が吹くと右や左にと転がります。今日は楽しいことがあったと浮かれ騒ぎ、今日は面白くないことがあったと言って、道に唾を吐き、人や社会に嫌がらせをする輩は、風に転がる落ち葉やごみと同じです。「どんな風が吹こうと、しっかりと信念をもって我が道を精進するという生き方」を実践して、常にやさしい言葉遣いや、怒の心をもって生活しましょう。

まだまだ、「我慢」の生活が強いられます。歯を食いしばって辛さに耐えるようなことも少なくなっている世の中のように思えます。つらい、苦しい、もうダメと限界を感じた時、いつもお話をさせている言葉を思い出しましょう。今の辛さは、自分に与えられた試練と感謝すれば、後に自分はこんなにつらいことに耐えられたという自信にもつながります。世の中に、完全な人は滅多にいないものです。出っ張っていたり、引っ込んでいたり、今生きている者同士がお互いに努力しあい、慰めあい励ましあって暮らすところに妙味があります。



命を大切にするときを考えられる行いは、素直という美しい思考で受け入れると宝物以上に輝きを増します。本校の橋本先生がお話をされました。手洗いをしましょうだけではなく、自分はハッピーバースディの歌を二回歌いながら手洗いをしていると言うのです。時間的に測ってみると30秒前後になります。推奨されている時間に相当します。ただ〇〇をしましょうではなく具体的に示していくと命を大切にすること大切なものに繋がっていくと思います。